

第82期中間報告書

(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)



Speciality
Chemical
Partner



荒川化学工業株式会社



代表取締役社長 末村 長弘

株主の皆様へ、第82期中間報告書（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の国内経済は、東日本大震災の影響により落ち込みましたが、生産活動の回復にともない、持ち直しの動きもみられました。しかしながら、海外景気の下振れリスクや円高の進行などにより、景気の減速感が強まりました。

また、世界経済は、中国を中心とした新興国での拡大が続きましたが、米国の景気減速や欧州の金融不安などにより、景気回復のペースが鈍化しました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、生産プロセスの合理化など徹底したコスト低減を推進するとともに、主原料であるロジンをはじめとする原材料価格の高騰に対応した製品価格の改定に努めてまいりました。また、超淡色ロジン、光硬化型樹脂および電子材料用配合製品などの高付加価値製品を中心に拡販を推進してまいりました。海外におきましては、中国などのアジア地域ならびに欧州での拡大を推進してまいりました。

しかしながら、想定以上のロジン価格の高騰、設備投資にともなう減価償却費の増加に加え、東日本大震災の影響などによる国内での需要減少もあり、収益性が悪化しました。

その結果、当中間期の売上高は362億77百万円（前年同期比12.4%増）、営業利益は12億16百万円（同20.9%減）、経常利益は12億41百万円（同23.6%減）、純利益は6億43百万円（同33.4%減）となりました。

なお、当中間期の配当金につきましては、1株につき11円50銭とさせていただきます。

荒川化学グループは、さらなる発展を目指して、第2次中期5ヵ年経営計画（平成20年4月から平成25年3月まで）において4つの基本方針を掲げ、さまざまな施策を推進しております。

1. 基盤事業（製紙薬品事業・化成品事業）のさらなる拡大
2. 伸長事業（機能材料事業・光電子材料事業）の拡大
3. 新規事業・新技術の創生
4. 経営・事業基盤の整備と強化

今後の経済見通しは、国内外の景気下振れリスクが高まるなど、予断を許さない状況であります。第2次中期5ヵ年経営計画のキャッチフレーズ「PINE DASH 1000」を共通認識とし、グループ一丸となって、目標の達成と次なる飛躍へ挑戦してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

役員一同



株主の皆様へ 1・2

What is ROSIN?
古都の夜空を照らす聖なる松明^{たいまつ} 3・4

事業の概況 5・6

連結財務諸表 7・8

Information
世界オンリーワン 9

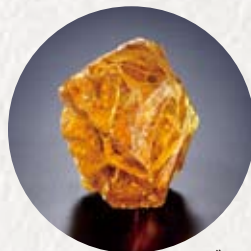
超淡色ロジン 第二拠点 完成

会社概要 10



古都の夜空を照らす聖なる松明

古都・京都において、お盆時期に行われる伝統行事『五山の送り火』。送り火の最後を飾る『鳥居形松明』には、“じん”と呼ばれる松の割木が松明として使用されます。この“じん”にはロジンの原料である松やにが含まれ、松明をより明々と燃やします。松やには、神聖なる灯りの源でもあるのです。



ロジン

伝統的な点火方法を守り続ける『鳥居形松明』

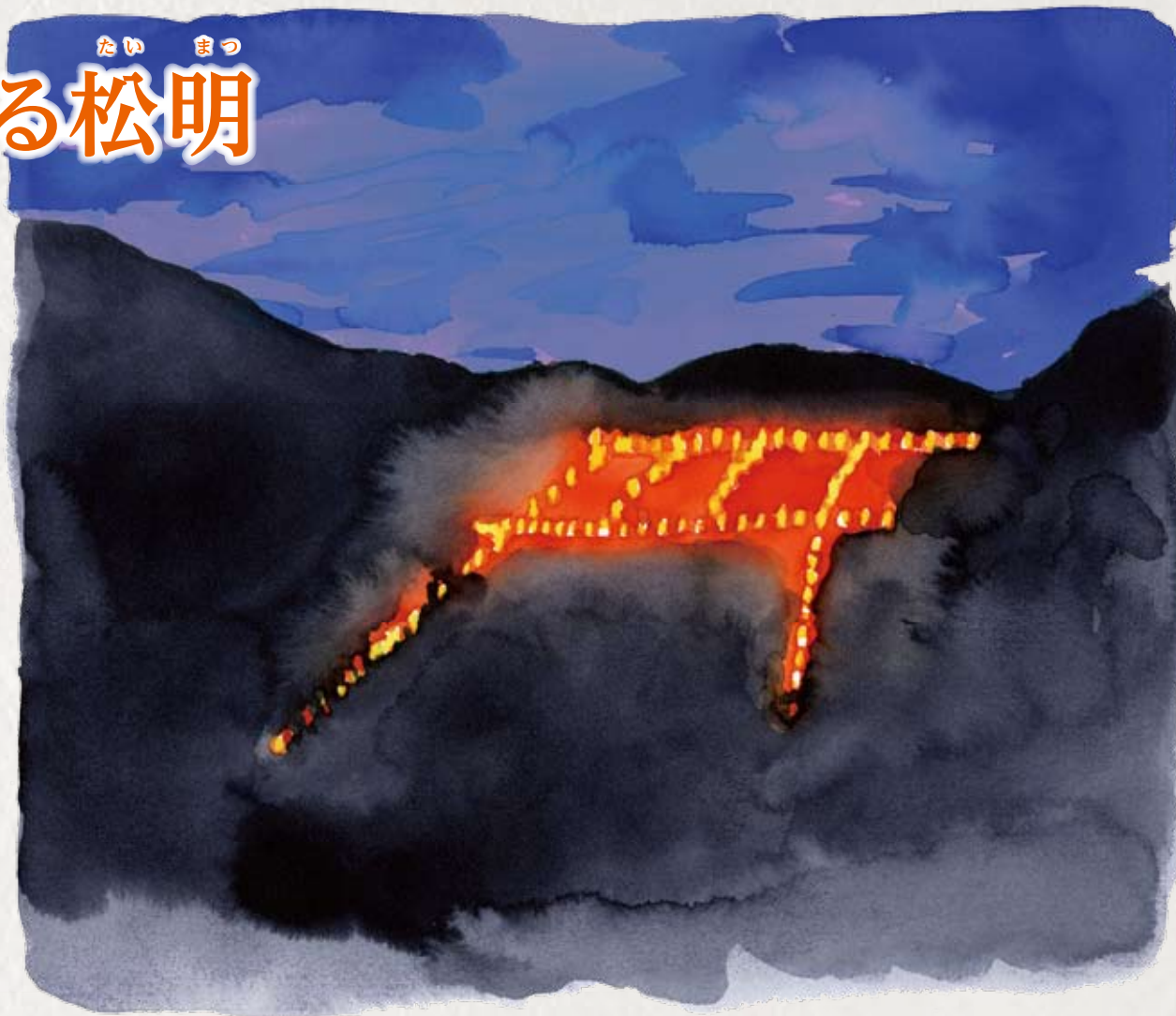
燃え盛る松明を神事に用いた儀式や祭りは、日本のみならず世界各国に見られます。かつては、10カ所にもわたる山々で松明が焚かれたという京都の『五山の送り火』もそのひとつです。その始まりに関しては諸説ありますが、仏教が庶民にも浸透した室町時代以降に広く行われるようになったといわれています。この伝統ある行事のなかでも、古来より受け継がれてきた独自の方法で送り火の儀式を執り行っているのが『鳥居形松明』です。

より強く、美しく、滑らかに “じん”が演出する松明の炎

『鳥居形松明』では、松やにを豊富に含む樹齢の古い松の割木“じん”を、太く束ねた“束”(そく)と呼ばれる松明を、送り火に使用しています。これは、他の送り火にはない『鳥居形松明』独特のもので、“じん”を用いることでより赤く燃え、より火勢が強くなり、“火が走る”と表現されるほどの流れるような点火を演出。美しい鳥居をくっきりと闇夜に浮かび上がらせ、古都の夜空を彩ります。



“じん”を太く束ねた松明



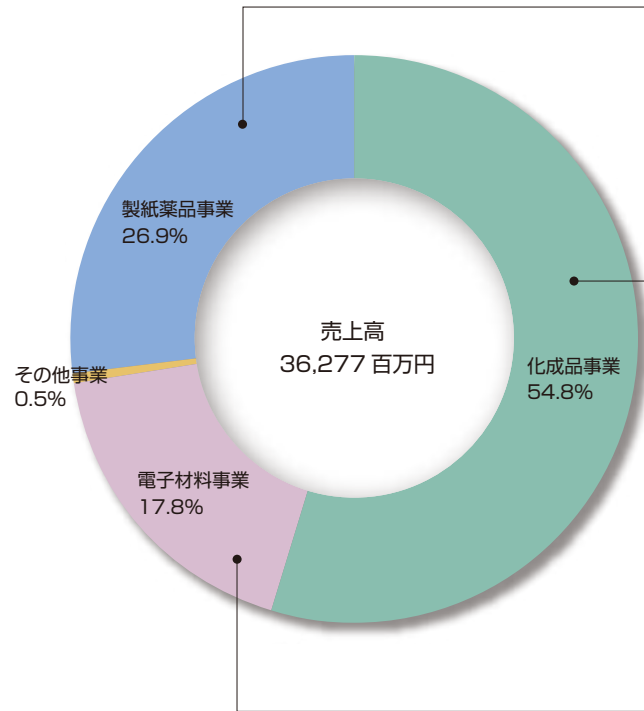
『鳥居形松明』は、弘法大師が千体の石仏を刻んで開眼供養を行った際に点火されたのが始まりとされます。

荒川化学はロジンと歩んで 130余年

荒川化学は、明治9年の創業以来、130余年におよぶ永きにわたり「ロジン」を原料とするパインケミカルズ(松脂関連化学製品)分野のパイオニアとしての地位を確立してまいりました。例えば、紙のにじみ止め薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂などを開発し、日本の産業の発展に大きく貢献してまいりました。

これからもロジンとともに 社会貢献

地球環境への関心が社会で高まる中、荒川化学は、ロジンという自然の恵みを生かした事業をおこなう企業として社会的責任も大きくなっていくと考えております。そのため、地球環境に優しい製品の研究や開発に引き続き取り組んでまいります。併せて、お客様の多様なご要望にお応えできる生産・販売体制のいっそうの充実に注力してまいります。



製紙薬品事業



国内製紙業界は、東日本大震災の影響により、生産が減少し、低調に推移しました。一方、中国製紙業界においては、需要の増加にともない、生産が拡大しました。このような環境のもと、当事業におきましては、中国や台湾における需要が伸び、売上が増加しました。利益面では、ロジンの価格高騰や石油化学原料の価格上昇などが収益を圧迫し、微増益にとどまりました。

その結果、売上高は97億68百万円(前年同期比12.5%増)、セグメント利益は4億23百万円(同1.1%増)となりました。

化成事業



国内の印刷インキ、塗料および粘着・接着剤業界は、東日本大震災の影響により、出版・広告および自動車関連分野などで、低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、印刷インキ用樹脂の需要が大きく落ち込み、売上が減少しました。一方、海外子会社におきましては、需要の拡大と荒川ヨーロッパ社の連結子会社化により、粘着・接着剤用樹脂の売上が大幅に増加しました。利益面では、ロジンの価格高騰や石油化学原料の価格上昇に加え、国内では印刷インキ用樹脂などの需要減少により採算性は悪化しましたが、海外子会社における大幅な販売増加により増益となりました。

その結果、売上高は198億84百万円(前年同期比24.9%増)、セグメント利益は9億12百万円(同17.8%増)となりました。

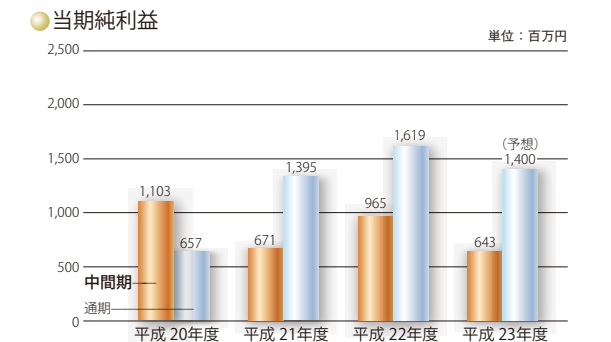
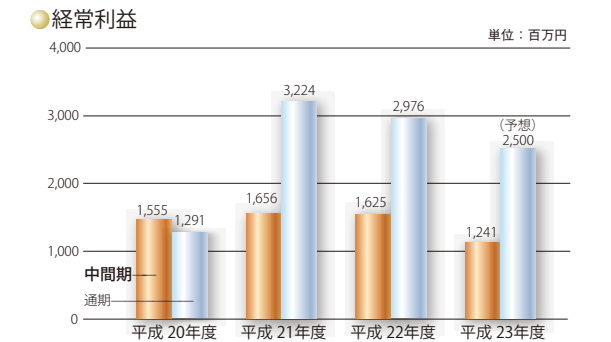
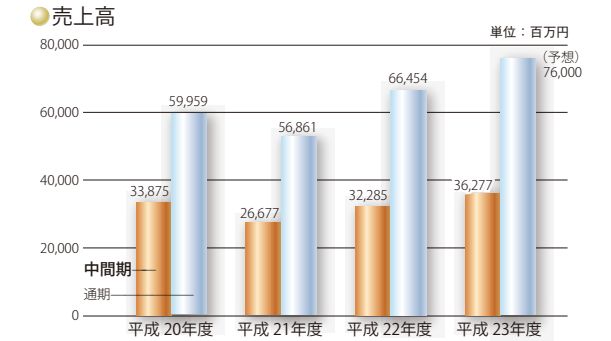
電子材料事業



電子工業業界は、スマートフォンの拡大があったものの、薄型テレビやノートパソコンなどの需要が低迷しました。このような環境のもと、当事業におきましては、光硬化型樹脂は一部用途で伸びもみられましたが、電子材料用配合製品と機能性ファインケミカル製品の売上が減少しました。利益面では、光硬化型樹脂の設備投資にともなう減価償却費の増加に加え、電子材料用配合製品の販売減少により損失となりました。

その結果、売上高は64億55百万円(前年同期比14.3%減)、セグメント損失は69百万円(前年同期はセグメント利益5億24百万円)となりました。

業績の推移



連結貸借対照表

科目	前中間期 (22.9.30 現在)	当中間期 (23.9.30 現在)	前 期 (23.3.31 現在)
[資産の部]			
流動資産	41,166	48,124	47,427
現金及び預金	6,547	6,121	6,443
受取手形及び売掛金	23,255	25,887	25,554
たな卸資産	10,182	14,472	13,656
その他	1,284	1,760	1,883
貸倒引当金	△ 103	△ 116	△ 110
固定資産	24,933	28,759	29,013
有形固定資産	20,196	23,696	23,846
建物及び構築物	6,469	7,794	6,929
機械装置及び運搬具	4,029	7,996	7,581
土地	5,423	4,704	5,328
その他	4,273	3,200	4,007
無形固定資産	413	815	729
投資その他の資産	4,323	4,247	4,438
投資有価証券	3,542	3,699	3,861
その他	804	569	600
貸倒引当金	△ 23	△ 21	△ 23
資産合計	66,099	76,884	76,441

(単位：百万円)

科目	前中間期 (22.9.30 現在)	当中間期 (23.9.30 現在)	前 期 (23.3.31 現在)
[負債の部]			
流動負債	25,815	27,605	28,824
支払手形及び買掛金	10,631	10,980	11,999
短期借入金	9,530	12,098	11,549
その他	5,652	4,526	5,275
固定負債	3,166	11,060	10,210
社債	—	5,000	5,000
長期借入金	832	3,753	2,847
退職給付引当金	2,062	2,013	2,078
その他	272	294	284
負債合計	28,982	38,666	39,034
[純資産の部]			
株主資本	36,245	37,038	36,647
資本金	3,128	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350	3,350
利益剰余金	29,777	30,571	30,180
自己株式	△ 11	△ 11	△ 11
評価・換算差額等	△ 260	△ 3	△ 366
その他有価証券評価差額金	342	322	528
繰延ヘッジ損益	18	—	—
為替換算調整勘定	△ 621	△ 326	△ 895
少数株主持分	1,132	1,183	1,126
純資産合計	37,117	38,218	37,407
負債純資産合計	66,099	76,884	76,441

連結損益計算書

科目	前中間期 (22.4.1 から 22.9.30 まで)	当中間期 (23.4.1 から 23.9.30 まで)	前 期 (22.4.1 から 23.3.31 まで)
売上高	32,285	36,277	66,454
売上原価	25,249	29,501	52,992
売上総利益	7,036	6,775	13,462
販売費及び一般管理費	5,498	5,558	10,684
営業利益	1,538	1,216	2,777
営業外収益	256	232	550
営業外費用	169	207	352
経常利益	1,625	1,241	2,976
特別利益	58	117	166
特別損失	78	146	657
税金等調整前中間(当期)純利益	1,605	1,211	2,484
法人税、住民税及び事業税	517	286	903
法人税等調整額	64	180	△ 147
少数株主利益	57	101	107
中間(当期)純利益	965	643	1,619

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前中間期 (22.4.1 から 22.9.30 まで)	当中間期 (23.4.1 から 23.9.30 まで)	前 期 (22.4.1 から 23.3.31 まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	605	416	△ 1,810
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,905	△ 2,199	△ 7,846
財務活動による キャッシュ・フロー	1,062	1,384	9,352
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 72	76	△ 107
現金及び現金同等物の 増加額 (△は減少額)	△ 309	△ 322	△ 411
現金及び現金同等物の 期首残高	6,745	6,333	6,745
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	6,436	6,011	6,333

(単位：百万円)

世界オンリーワン 超淡色ロジン 第二拠点 完成

基盤事業のさらなる拡大を実現するため、約30億円を投資し建設を進めておりました小名浜工場内の超淡色ロジン『パインクリスタル』の生産設備が完成いたしました。

超淡色ロジンは、不純物が少なく熱などに対して安定である等の優れた特長を有しており、医療用粘着剤や鉛フリーはんだ用フラックス、プラスチック用添加剤等の付加価値の高い分野で使用され、順調に需要が増加しております。

この設備完成により、安定供給と、ますます増加する需要に対応してまいります。



超淡色ロジン『パインクリスタル』



会社概要 (平成23年9月30日現在)

商号	荒川化学工業株式会社
創業	明治9年(1876年)
設立	昭和6年1月(1931年)
資本金	31億2,830万円
グループ従業員	1,327名
主な事業内容	次の製品の製造および販売 製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、 粘着・接着剤用樹脂、合成ゴム重合用乳化剤、 光硬化型樹脂、電子材料用配合製品、 精密部品洗浄剤および洗浄装置
ホームページアドレス	http://www.arakawachem.co.jp

役員 (平成23年9月30日現在)

代表取締役社長	末村長弘
常務取締役	中尾光良
常務取締役	松本圭三
常務取締役	谷奥勝三
常務取締役	眞鍋好輝
取締役	三谷育洋
取締役	河村敏嗣
取締役	延廣徹
取締役	辰巳純一
取締役	宇根高司
取締役	荒川壽正
監査役(常勤)	山中勝之
監査役(常勤)	蒔田宗治
監査役	岩城本臣
監査役	中西隆夫

(注) 監査役岩城本臣および中西隆夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	52,800,000株
発行済株式の総数	20,150,400株
株主数	3,627名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,405千株	6.98%
荒川化学従業員持株会	1,076	5.34
株式会社三菱東京UFJ銀行	940	4.67
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	845	4.20
荒川壽正	592	2.94
三菱化学株式会社	406	2.02
荒川彦二	400	1.99
株式会社みずほ銀行	397	1.97
株式会社三井住友銀行	396	1.97
王子製紙株式会社	345	1.72

(注) 持株比率は、自己株式(11,746株)を控除して計算しております。

グループ会社の状況 (平成23年9月30日現在)

会社名	資本金	議決権比率
広西梧州荒川化学工業有限公司	11,500 千米ドル	100%
広西荒川化学工業有限公司	12,000 千米ドル	100%
梧州荒川化学工業有限公司	3,500 千米ドル	100%
南通荒川化学工業有限公司	5,500 千米ドル	100%
ARAKAWA CHEMICAL (THAILAND) LTD.	119,000 千タイバーツ	100%
ペルノックス株式会社	60 百万円	100%
高压化学工業株式会社	60 百万円	100%
Arakawa Europe GmbH	52 千ユーロ	100%
台湾荒川化学工業股份有限公司	149,226 千新台幣元	60%
荒川化学合成(上海)有限公司	1,800 千米ドル	100%
Arakawa Chemical (USA) Inc.	1,400 千米ドル	100%
カクタマサービス株式会社	100 百万円	100%
HONG KONG ARAKAWA CHEMICAL LTD.	4,000 千米ドル	60%
廈門荒川化学工業有限公司	5,603 千米ドル	間接60%